

八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領

制定 令和6年3月28日

(趣旨)

第1条 この要領は、家庭における地球温暖化対策の推進に加え電力の強靱化を図るため、住宅用設備等（以下「補助対象設備」という。）を導入する者に対し、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金（以下「補助金」という。）を交付することに関し、八千代市補助金等交付規則（平成17年八千代市規則第43号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(補助金の交付対象)

第2条 この要領において、補助の対象となる事業（以下「補助事業」という。）は、第3条に定める市内の住宅（店舗・事務所等との併用住宅を含む。以下同じ。）に、次の各号に掲げる未使用の補助対象設備を各法令に準拠し導入する事業とする。

- (1) 家庭用燃料電池システム（エネファーム）
- (2) 定置用リチウムイオン蓄電システム
- (3) 窓の断熱改修
- (4) 電気自動車
- (5) プラグインハイブリッド自動車
- (6) V2H充放電設備
- (7) 集合住宅用充電設備
- (8) 住民の合意形成のための資料

2 補助対象設備の要件は別表1のとおりとする。

(補助対象設備を導入する住宅)

第3条 補助対象設備を導入する住宅は、別表2の補助対象設備ごとの要件を満たすこととする。

(補助対象者)

第4条 補助金は、補助事業を実施する者に対して交付するものとする。ただし、この補助金の申請を行う前に補助対象設備の設置工事に着工した者には、補助金を交付しないものとし、かつ、別表3の共通要件及び別表4の補助対象設備ごとの要件を満たすこととする。

(補助対象経費と補助金の額)

第5条 補助の対象となる経費（以下「補助対象経費」という。）は補助事業を実施する者が負担した設置費等のうち別表5に示すものとし、補助金の額

は別表 6 のとおりとする。

- 2 前項の補助対象経費の算出に当たっては、消費税及び地方消費税相当額を控除するものとし、設置費等に国その他の団体からの補助金を充当する場合にあってはさらに当該補助金の額を控除した額とする。
- 3 補助金は電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、集合住宅用充電設備及び住民の合意形成のための資料を除く補助対象設備の種類ごとに、一の住宅に 1 回（個人による集合住宅の専有部分において利用する設備の設置にあっては 1 戸に限り 1 回、マンション管理組合による窓の断熱改修にあっては 1 棟に限り 1 回）に限り交付する。ただし、過去に補助金の交付を受けた者と異なる世帯を構成する者が設備を設置する場合にはこの限りではない。
- 4 補助金は電気自動車及びプラグインハイブリッド自動車にあっては、導入する住宅において、補助対象設備の種類ごとに、申請者ひとりに付き 1 回に限り交付する。
- 5 補助金は集合住宅用充電設備及び住民の合意形成のための資料にあっては、補助対象設備の種類ごとに、同一の工事に付き 1 回に限り交付する。

（交付申請書等）

第 6 条 規則第 3 条第 1 項の交付申請書は、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付申請書（第 1 号様式）とする。

- 2 前項の交付申請書には、別表 7 及び別表 8 に掲げる書類を添付しなければならない。

（交付の条件）

第 7 条 規則第 5 条の規定により付する条件は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 補助事業に要する経費の配分の変更をする場合においては、市長の承認を受けること。
- (2) 補助事業の内容の変更をする場合においては、市長の承認を受けること。
- (3) 補助事業を中止し、又は廃止する場合においては、市長の承認を受けること。
- (4) 補助事業が予定の期間内に完了しない場合又は補助事業の遂行が困難となった場合においては、速やかに市長に報告してその指示を受けること。
- (5) 規則第 6 条の規定による補助金の交付の可否の決定の通知を受けた日に係る年度の 2 月末日（同日が閉庁日の場合は、その直前の開庁日）までに補助事業が完了すること。
- (6) 規則第 12 条第 1 項に規定する補助事業等実績報告書を提出する日までに、個人の補助対象者（集合住宅用充電設備を設置する者は除く。）においては、補助対象設備を導入した住宅に居住し、かつ、本市に住民登録の

届出を済ませていること。

(決定通知)

第8条 規則第6条の規定による補助金の交付の可否の決定の通知は、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付決定(却下)通知書(第2号様式)により行うものとする。

(事業変更承認申請書等)

第9条 第7条第1号から第3号までの規定により市長の承認を受けようとするときは、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金事業変更(中止・廃止)承認申請書(第3号様式)を速やかに市長に提出するものとする。

2 市長は、前項の申請書の提出があったときは、審査の上、速やかに承認の可否を決定し、その旨を八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金事業変更(中止・廃止)承認(不承認)決定通知書(第4号様式)により通知するものとする。

(実績報告書等)

第10条 規則第12条第1項の補助事業等実績報告書は、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金実績報告書(第5号様式)とする。

2 前項の報告書には、別表9及び別表10に掲げる書類を添付しなければならない。

(確定通知)

第11条 規則第13条の規定による交付すべき補助金の額の確定通知は、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付額確定通知書(第6号様式)により行うものとする。

(交付請求書)

第12条 規則第15条の交付請求書は、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付請求書(第7号様式)とする。

(手続の代行)

第13条 補助金の交付を受けようとする者は、補助金の交付を受けるための手続について、代行者を選任し、手続を代行させることができる。

2 前項の規定により、代行者を選任し、手続を代行させる場合は、手続代行届出書(第8号様式)を市長に提出するものとする。

(財産の管理)

第14条 この要領に基づき補助金の交付を受けて補助事業を実施した者は、補助事業により取得し、又は効用の増加した財産について、補助事業の完了後においても注意をもって適正に管理するとともに、補助金の交付の目的に従ってその効率的な運用を図らなければならない。

(処分の制限)

第15条 この要領に基づき補助金の交付を受けて補助事業を実施した者は、補助事業により取得し、又は効用の増加した財産について、市長が指定する期間（以下「財産処分制限期間」という。）は、この補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、取壊し、又は廃棄してはならない。ただし、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金処分承認申請書（第9号様式）により市長の承認を得た場合はこの限りではない。

2 前項で定める財産処分制限期間は、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定める耐用年数を勘案して、別表11のとおりとする。

3 市長は、第1項による承認申請書が提出されたときは、審査の上、速やかに承認の可否を決定し、その旨を八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金処分承認（不承認）通知書（第10号様式）により通知するものとする。

4 補助金の交付を受けた者は、前項の規定による通知を受けた場合において、財産処分制限期間の満了日までの月数（1か月未満の期間は算入しない。）の割合に相当する補助金の額（1,000円未満の端数が生じるときは、これを切り捨てた額とする。）を返還しなければならない。

5 前項の規定にかかわらず、当該処分が天災、本人の責めに帰さない事故その他のやむを得ない事由による場合において、市長は返還すべき補助金の額の全部又は一部を免除することができる。

(協力の義務)

第16条 この要領に基づき補助金の交付を受けて補助事業を実施した者は、市長から事業効果等に関する資料の提供を求められたときは、これに協力しなければならない。

(その他)

第17条 この要領に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

2 八千代市住宅用太陽光発電設備設置費補助金交付実施要領及び八千代市住宅用省エネルギー設備設置費補助金交付実施要領は、平成25年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、平成

2 6年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。

- 2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、平成27年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

- 2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、平成28年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

- 2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、平成29年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

- 2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、平成30年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

- 2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、令和元年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、令和3年4月1日から施行する。

- 2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、令和2年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、令和3年6月3日から施行し、令和3年度分の予算に係る補助金から適用する。

附 則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。

- 2 八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領は、令和3年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は、令和5年4月1日から施行する。

2 八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領は，令和4年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

附 則

この要領は，令和5年8月17日から施行する。

附 則

この要領は，令和6年4月1日から施行する。

2 八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領は，令和5年度分の予算に係る補助金をもって廃止する。

別表 1 (第 2 条) 補助対象設備の要件

補助対象設備の種類	補助対象設備の要件
<p>家庭用燃料電池システム (エネファーム)</p>	<p>燃料電池ユニット並びに貯湯ユニット等から構成され、都市ガス、LPガスなどから燃料となる水素を取り出して空気中の酸素と反応させて発電し、発電時の排熱を給湯等に利用できるもののうち、一般社団法人燃料電池普及促進協会の機器登録を受けているものであること。ただし、停電時自立運転機能を有するものに限る。</p>
<p>定置用リチウムイオン蓄電システム</p>	<p>リチウムイオン蓄電池部（リチウムイオンの酸化及び還元で電氣的にエネルギーを供給する蓄電池をいう。）並びにインバータ等の電力変換装置を備え、再生可能エネルギーにより発電した電力又は夜間電力などを繰り返し蓄え、停電時や電力需要ピーク時など必要に応じて電気を活用することができるもののうち、国が令和 4 年度以降に実施する補助事業における補助対象機器として、一般社団法人環境共創イニシアチブにより登録されているものであること。</p>
<p>窓の断熱改修</p>	<p>既存住宅に設置されている窓を、断熱性能が高い窓へ改修（内窓の設置を含む。）するにあたり、国が令和 4 年度以降に実施する補助事業における補助対象機器として、一般社団法人環境共創イニシアチブ又は公益財団法人北海道環境財団により登録されているものであること。加えて、1 室単位で外気に接する全ての窓の断熱化をすること。</p> <p>※室とは、壁、ドア、障子、襖等で仕切られている空間をいう。</p> <p>（空気が通り抜けてしまう簡易的な仕切り（カーテン、ロールスクリーン等）は、室を区切る仕切りとして認められない。）</p> <p>補助対象：リビング、ダイニング、寝室、子ども部屋、キッチン、階段、踊り場、納戸、廊下、玄関、トイレ、浴室、屋内ガレージ等</p> <p>※例として、リビングとキッチン・階段・踊り場・廊下が壁、ドア、障子、襖等で仕切られておらず一体の場合は、キッチン・階段・踊り場・廊下の窓も含め、1 室と判断し、リビングの窓だけではなく、それらも</p>

	<p>含め断熱改修が必要となる。</p> <p>※換気小窓（障子に組み込まれ、障子を閉めた状態で換気を行うことができる小窓）、300×200mm以下のガラスを用いた窓及び換気を目的としたジャロジー窓、テラスドア・勝手口ドア、玄関ドアに付属する窓及びガラス等は、改修を要件としない。ただし、補助対象製品を用いた改修を行う場合は補助対象とできる。</p> <p>※マンション等においては、1戸以上の窓の断熱改修を行う場合、エントランス、ロビー、階段、廊下等の、居住の用に供していない共用部分の窓の断熱改修についても補助対象とできる。</p>
電気自動車	<p>電池によって駆動される電動機のみを原動機とし、内燃機関を併用しない自動車（道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第60条第1項の規定による自動車検査証の交付を受けた同法第2条第2項に規定する自動車をいう。以下同じ。）で、自動車検査証に当該自動車の燃料の種類が「電気」と記載されているもののうち、以下の要件を満たすもの。ただし、自動車検査証の用途が「乗用」、自家用・事業用の別が「自家用」と記載されている四輪のものに限る。</p> <p>(1) 申請者が補助金の交付を受けるに当たり、新車として新たに購入したもの（中古の輸入車の初度登録車を除く。）であること。</p> <p>(2) 自動車検査証の使用の本拠の位置が、市内の住所であること。</p> <p>(3) 自動車検査証の登録年月日又は交付年月日が、補助金の交付を受ける年度内の日付であること。</p> <p>(4) 国が令和4年度以降に実施する補助事業において、一般社団法人次世代自動車振興センターにより補助対象とされている電気自動車であること。</p>
プラグインハイブリッド自動車	<p>電池によって駆動される電動機と内燃機関を原動機として併用し、かつ外部からの充電が可能な自動車で、自動車検査証に当該自動車の燃料の種類が「ガソリン・電気」又は「軽油・電気」と記載されているもののうち、以下の要件を満たすもの。ただし、自動車検査証の用途が「乗用」、自家用・事業用の別が「自家</p>

	<p>用」と記載されている四輪のものに限る。</p> <p>(1) 申請者が補助金の交付を受けるに当たり、新車として新たに購入したもの（中古の輸入車の初度登録車を除く。）であること。</p> <p>(2) 自動車検査証の使用の本拠の位置が、市内の住所であること。</p> <p>(3) 自動車検査証の登録年月日又は交付年月日が、補助金の交付を受ける年度内の日付であること。</p> <p>(4) 国が令和4年度以降に実施する補助事業において、一般社団法人次世代自動車振興センターにより補助対象とされているプラグインハイブリッド自動車であること。</p>
<p>V 2 H 充放電設備</p>	<p>電気自動車又はプラグインハイブリッド自動車（以下「電気自動車等」という。）と住宅の間で相互に電気を供給できる設備のうち、国が令和4年度以降に実施する補助事業において、一般社団法人次世代自動車振興センターにより補助対象とされているものであること。</p>
<p>集合住宅用充電設備</p>	<p>集合住宅の管理者等が電気自動車等に充電するために設置する以下の設備のうち、国が令和4年度以降に実施する補助事業において、一般社団法人次世代自動車振興センターにより補助対象とされているものであること。</p> <p>(1) 急速充電設備</p> <p>電源から充電用の直流電力を作り出す電源装置及び電気自動車等に搭載された電池への充電を制御する機能を共に有する、一基当たりの定格出力が10kW以上のもので、充電コネクタ、ケーブルその他の装備一式を備えたものをいう。</p> <p>(2) 普通充電設備</p> <p>漏電遮断機能及びコントロールパイロット機能を有する、一基当たりの定格出力が10kW未満のもので、充電コネクタ、ケーブルその他の装備一式を備えたものをいう。</p> <p>(3) 蓄電池付急速充電設備</p> <p>主として電気自動車等の充電のために蓄電する電池を備えた、一基当たりの定格出力が50kW以上の急</p>

	<p>速充電設備で充電コネクタ、ケーブルその他装備一式を備えたものをいう。</p> <p>(4) 充電用コンセント 電気自動車等に附属する充電ケーブルを接続する200V対応の電気自動車等専用のプラグの差込口をいう。</p> <p>(5) 充電用コンセントスタンド (4)を装備する盤状又は筒状の筐体をいう。</p>
<p>住民の合意形成のための資料</p>	<p>マンション管理組合が住民の合意形成のために作成する充電設備の導入に係る説明資料（充電設備の設置場所見取図、平面図、電気系統図、配線ルート図及び住民の費用負担のシミュレーション等）で、当資料を使用することにより、マンション管理組合の総会等で集合住宅用充電設備の導入についての議論が行われるものであること。</p>

別表 2 (第 3 条) 補助対象設備を導入する住宅の要件

補助対象設備の種類	補助対象設備を導入する住宅の要件
<p>家庭用燃料電池 システム (エネファーム)</p>	<p>次の各項のいずれかに該当すること。</p> <p>ア 補助事業を実施する者自らが所有し居住する市内に所在する住宅。</p> <p>イ 補助事業を実施する者自らの居住の用に供するために市内に新築する住宅。</p> <p>ウ 補助事業を実施する者の居住の用に供するために取得する，未使用の設備が住宅を販売する事業者等により予め設置された市内に所在する住宅。</p> <p>エ 第三者が所有し，補助事業を実施する者自らが居住する市内に所在する住宅。</p>
<p>定置用リチウム イオン蓄電システム</p>	<p>(1) 市への実績報告の日までに住宅用太陽光発電設備（太陽電池を利用して電気を発生させるための定置型の設備であって，設置された住宅において電気が消費されるものをいう。以下同じ。）が設置されていること。なお，接続する住宅用太陽光発電設備は，新設・既設を問わない。</p> <p>(2) 次の各項のいずれかに該当すること。</p> <p>ア 補助事業を実施する者自らが所有し居住する市内に所在する住宅。</p> <p>イ 補助事業を実施する者自らの居住の用に供するために市内に新築する住宅。</p> <p>ウ 補助事業を実施する者の居住の用に供するために取得する，未使用の設備が住宅を販売する事業者等により予め設置された市内に所在する住宅。</p> <p>エ 第三者が所有し，補助事業を実施する者自らが居住する市内に所在する住宅。</p>
<p>窓の断熱改修</p>	<p>(1) 窓の断熱改修の工事に着工する前日までに建築工事が完了していること。</p> <p>(2) 次の各項のいずれかに該当すること。</p> <p>ア 補助事業を実施する者自らが所有し居住する市内に所在する住宅。</p> <p>イ 第三者が所有し，補助事業を実施する者自らが居住する市内に所在する住宅。</p> <p>ウ 補助事業を実施する者が管理する，市内に所在する共同住宅又は長屋（以下「マンション等」とい</p>

	う。) 。
電気自動車, プラグイン ハイブリッド自動車	<p>(1) 市への実績報告の日までに住宅用太陽光発電設備が設置され, 発電した電気を電気自動車等に充電できること。なお, 接続する住宅用太陽光発電設備は, 新設・既設を問わない。</p> <p>(2) 市への実績報告の日までに補助事業を実施する者自らが居住する市内に所在する住宅であること。</p> <p>(3) 別表 6 において, 住宅用太陽光発電設備及び V 2 H 充放電設備を併設する場合の補助を受けようとするときは, 市への実績報告の日までに V 2 H 充放電設備を設置していること。なお, V 2 H 充放電設備は, 新設・既設を問わない。</p>
V 2 H 充放電設備	<p>(1) 市への実績報告の日までに住宅用太陽光発電設備が設置され, かつ, 電気自動車等が導入されていること。なお, 接続する住宅用太陽光発電設備は, 新設・既設を問わない。また, 電気自動車等は, 新規導入・導入済みを問わない。</p> <p>(2) 次の各項のいずれかに該当すること。</p> <p>ア 補助事業を実施する者自らが所有し居住する市内に所在する住宅。</p> <p>イ 補助事業を実施する者自らの居住の用に供するために市内に新築する住宅。</p> <p>ウ 補助事業を実施する者の居住の用に供するために取得する, 未使用の設備が住宅を販売する事業者等により予め設置された市内に所在する住宅。</p> <p>エ 第三者が所有し, 補助事業を実施する者自らが居住する市内に所在する住宅。</p>
集合住宅用充電設備	<p>(1) 既存のマンション等であり, 設備はマンション等に属する駐車場 (平置き, 立体自走, 機械式等) における充電設備として居住者が利用できるものであること。</p> <p>(2) 別表 6 において, 住民以外も充電設備を利用可能な場合の補助を受けようとするときは, 市への実績報告の日までに, 集合住宅用充電設備を導入するマンション等の敷地の外から, 住民以外も充電設備を利用することができることの記載がされた案内板が確認できること。</p>

住民の合意形成のための資料	マンション管理組合が管理する、既存のマンション等であること。
---------------	--------------------------------

別表3（第4条） 補助対象者の要件（共通要件）

補助対象設備の種類	補助対象者の要件
第2条第1項に掲げる全ての補助対象設備	<p>(1) 設備の設置費等を負担し、設備等を所有すること。（所有権留保付きローン（残価設定型の契約を含む。）で購入し、所有者が販売店又はファイナンス会社等である場合及びリースにより導入し、所有者がリース事業者等である場合を含む。）</p> <p>(2) 補助対象設備の導入をリースで行う場合には、設置者とリース事業者が共同で補助事業を行うものとする。また、リース事業者は、リースを受ける者から領収する月額リース料金を減額する形で補助金相当分を還元するものとする。</p> <p>なお、リース契約については、次のいずれかを満たすことを要件とする。</p> <p>ア リース期間が第15条第2項に規定する財産処分制限期間以上の契約となっていること。</p> <p>イ アを満たさない場合は、リース期間終了後に設置者が補助対象設備を購入する契約となっていること。</p>

別表 4 (第 4 条) 補助対象者の要件 (補助対象設備ごとの要件)

補助対象設備の種類	補助対象者の要件
<p>家庭用燃料電池システム (エネファーム) , 定置用リチウムイオン蓄電システム※, V 2 H 充放電設備</p>	<p>(1) 市内に住所を有する個人であること。 (市への実績報告の日までに住民登録をする場合を含む。)</p> <p>(2) 補助対象設備を設置する住宅において、共有者がいる場合又は第三者が所有する場合は、全ての共有者又は所有者から補助対象設備を設置することについて同意を得ていること。</p> <p>(3) 補助対象設備を設置する住宅において、設置する設備と同じ種類の補助対象設備に対し、自ら又は自らと同一の世帯を構成する者が、八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領又は八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領に基づく補助を受けていないこと。</p>
<p>窓の断熱改修</p>	<p>補助対象設備を導入する住宅が、別表 2 「窓の断熱改修」の(2)ア又はイに該当する場合</p> <p>(1) 市内に住所を有する個人であること。 (市への実績報告の日までに住民登録をする場合を含む。)</p> <p>(2) 補助対象設備を設置する住宅において、共有者がいる場合又は第三者が所有する場合は、全ての共有者又は所有者から補助対象設備を設置することについて同意を得ていること。</p> <p>(3) 補助対象設備を設置する住宅において、設置する設備と同じ種類の補助対象設備に対し、自ら又は自らと同一の世帯を構成する者が、八千代市住宅用省エネルギー設備等設置費補助金交付実施要領又は八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領に基づく補助を受けていないこと。</p> <p>補助対象設備を導入する住宅が、別表 2 「窓の断熱改修」の(2)ウに該当する場合</p> <p>(1) 補助対象設備を設置する市内のマンション等のマンション管理組合であること。</p> <p>(2) 補助対象設備を設置するマンション等において、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領に基づき同じ種類の補助対象設備の補</p>

	助を受けていないこと。
電気自動車, プラグイン ハイブリッド自動車	(1) 市内に住所を有する個人であること。 (市への実績報告の日までに住民登録をする場合を含む。) (2) 補助対象設備を導入する住宅において、導入する設備と同じ種類の補助対象設備に対し、申請者が八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領に基づく補助を受けていないこと。
集合住宅用充電設備	(1) 補助対象設備を設置する市内のマンション等のマンション管理組合又は所有者であること。 (2) 補助対象設備の設置にあたって、国が実施するクリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金の交付決定通知を受けていること。 (3) 同一の工事において、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領に基づき同じ種類の補助対象設備の補助を受けていないこと。
住民の合意形成 のための資料	(1) 集合住宅用充電設備を設置しようとする市内のマンション等のマンション管理組合であること。 (2) 同一の工事において、八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金交付実施要領に基づき同じ種類の補助対象設備の補助を受けていないこと。

※定置用リチウムイオン蓄電システムの設置者又は自らと同一の世帯を構成する者が、県の他の同種の補助金の交付を重複してを受けていないこと。

別表 5 (第 5 条) 補助対象経費

補助対象設備の種類	補助対象経費
家庭用燃料電池システム (エネファーム)	設備本体(燃料電池ユニット, 貯湯ユニット等)及び付属品(給湯器, リモコン等)の購入費, 工事費(据付・配線・配管工事等)
定置用リチウムイオン蓄電システム	設備本体(蓄電池部, 電力変換装置, 蓄電システム制御装置等)及び付属品(計測・表示装置, キュービクル等)の購入費, 工事費(据付・配線工事等)
窓の断熱改修	<p>設備本体(ガラス, 窓)及び高断熱窓の設置と不可分の工事費(窓・ガラスの取付け費, 内窓取付け時に必要な額縁・ふかし枠, カバー工法によるサッシ, 外部・内部シーリング等の費用, 仮設足場費, 既存設備の解体撤去費等)</p> <p>※網戸, 雨戸等の窓付属部材費は対象経費に含まない。</p> <p>※ガラスが付随するドアそのものの本体及びその交換に要する工事費は対象経費に含まない。</p>
電気自動車	電気自動車本体の購入費
プラグインハイブリッド自動車	プラグインハイブリッド自動車本体の購入費
V2H充放電設備	V2H充放電設備本体の購入費
集合住宅用充電設備	急速充電設備, 普通充電設備, 蓄電池付急速充電設備, 充電用コンセント及び充電用コンセントスタンド本体の購入費
住民の合意形成のための資料	充電設備の設置場所見取図, 平面図, 電気系統図, 配線ルート図及び住民の費用負担のシミュレーション等の作成費(事業者への外注費に限る。)

別表 6 (第 5 条) 補助金の額

補助対象設備の種類	補助金の額※
家庭用燃料電池システム (エネファーム)	10万円
定置用リチウムイオン 蓄電システム	7万円
窓の断熱改修	補助対象設備を導入する住宅が、別表 2「窓の断熱改修」の(2)ア又はイに該当する場合 補助対象経費×1/4 (上限 8万円)
	補助対象設備を導入する住宅が、別表 2「窓の断熱改修」の(2)ウに該当する場合 補助対象経費×1/4 (上限 8万円×改修を行う戸数)
電気自動車	住宅用太陽光発電設備及びV2H充放電設備を併設する場合 15万円
	住宅用太陽光発電設備を併設する場合 10万円
プラグインハイブリッド 自動車	住宅用太陽光発電設備及びV2H充放電設備を併設する場合 15万円
	住宅用太陽光発電設備を併設する場合 10万円
V2H充放電設備	補助対象経費×1/10 (上限 25万円)
集合住宅用充電設備(急速充電設備・普通充電設備・蓄電池付急速充電設備・充電用コンセント・充電用コンセントスタンド)	住民のみ充電設備を利用可能な場合 設備本体の購入費に係る国が実施するクリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金の補助金額 ×1/3(上限 50万円×設置する充電設備の基数(複数口の充電設備にあつては、その口数))
	住民以外も充電設備を利用可能な場合 設備本体の購入費に係る国が実施するクリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金の補助金額 ×2/3(上限 100万円×設置する充電設備の

	基数（複数口の充電設備にあつては，その口数））
住民の合意形成のための資料	15万円

※補助対象経費が補助金の額に満たない場合にはその額とし，補助金の額に1,000円未満の端数が生じるときは，これを切り捨てた額とする。

別表7（第6条） 交付申請書の添付書類（共通して必要となるもの）

補助対象設備の種類	交付申請書の添付書類
第2条第1項に掲げる全ての補助対象設備	<p>(1) 補助対象設備の概要（第1号様式 別紙1）</p> <p>(2) 補助対象設備の設置等に係る経費の内訳が記載された契約書又は注文書等の写し（補助対象設備の導入をリースで行う場合にあっては，リース事業者が購入する設備の購入費・工事費が確認できる書類及びリース契約書の写し）</p> <p>(3) 貸与料金の算定根拠明細書（第1号様式 別紙2）※1 ※1 補助対象設備の導入をリースで行う場合に限り必要。</p> <p>(4) 法人に係る登記事項証明書（現在事項全部証明書又は履歴事項全部証明書）の写し※2 ※2 補助事業を実施する者が法人である場合に限り必要。</p> <p>(5) その他市長が必要と認める書類</p>

別表 8 (第 6 条) 交付申請書の添付書類 (補助対象設備ごとに必要となるもの)

補助対象設備の種類	交付申請書の添付書類
<p>家庭用燃料電池システム (エネファーム), 定置用リチウムイオン蓄電システム, V2H充放電設備</p>	<p>(1) 補助対象設備の技術仕様が確認できる書類 (カタログ又は仕様書等) の写し (2) 補助対象設備の設置予定図面 (3) 補助対象設備の設置工事着工前の現況写真</p>
<p>窓の断熱改修</p>	<p>(1) 補助対象設備の技術仕様が確認できる書類 (カタログ又は仕様書等) の写し (2) 補助対象設備の設置予定図面 (平面図, 立面図) (3) 補助対象設備の設置工事着工前の現況写真 (4) 補助対象設備を設置する住宅の建築工事が完了していることを確認できる書類 (5) マンション管理組合の現在の代表者が選定されたことを証する書類 (総会の議事録等) の写し及び代表者の本人確認書類 (免許証, 健康保険証, 住民票等) の写し※1 ※1 補助事業を実施する者が法人格をもたないマンション管理組合である場合に限り必要。 (6) マンション等であることを証する書類 (建築確認通知書, 建築基準法第6条の規定による確認済証, 賃貸契約書等で, マンション等であることが明記されている書類) の写し※2 ※2 補助事業を実施する者がマンション管理組合である場合に限り必要。</p>
<p>電気自動車, プラグイン ハイブリッド自動車</p>	<p>補助対象設備の技術仕様が確認できる書類 (カタログ又は仕様書等) の写し</p>
<p>集合住宅用充電設備</p>	<p>(1) 補助対象設備の技術仕様が確認できる書類 (カタログ又は仕様書等) の写し (2) 補助対象設備の設置予定図面 (3) 補助対象設備の設置工事着工前の現況写真 (4) 一般社団法人次世代自動車振興センターへ提出</p>

	<p>した交付申請書類一式及び当該申請に係る交付決定書類の写し</p> <p>(5) マンション管理組合の現在の代表者が選定されたことを証する書類（総会の議事録等）の写し及び代表者の本人確認書類（免許証，健康保険証，住民票等）の写し※1</p> <p>※1 補助事業を実施する者が法人格をもたないマンション管理組合である場合に限り必要。</p> <p>(6) 申請者個人の本人確認書類（免許証，健康保険証，住民票等）の写し※2</p> <p>※2 補助事業を実施する者が個人である場合に限り必要。</p> <p>(7) マンション等であることを証する書類（建築確認通知書，建築基準法第6条の規定による確認済証，賃貸契約書等で，マンション等であることが明記されている書類）の写し</p>
<p>住民の合意形成のための資料</p>	<p>(1) マンション管理組合の現在の代表者が選定されたことを証する書類（総会の議事録等）の写し及び代表者の本人確認書類（免許証，健康保険証，住民票等）の写し※</p> <p>※補助事業を実施する者が法人格をもたないマンション管理組合である場合に限り必要。</p> <p>(2) マンション等であることを証する書類（建築確認通知書，建築基準法第6条の規定による確認済証，賃貸契約書等で，マンション等であることが明記されている書類）の写し</p>

別表 9（第 10 条） 実績報告書の添付書類（共通して必要となるもの）

補助対象設備の種類	実績報告書の添付書類
<p>第 2 条第 1 項に掲げる全ての補助対象設備</p>	<p>(1) 補助対象設備の概要（第 5 号様式 別紙）</p> <p>(2) 補助対象設備の設置費等の支払いを証する書類・内訳書の写し※ 1</p> <p>※ 1 補助対象設備の導入をリースで行う場合は不要。</p> <p>(3) 住民票の写し※ 2</p> <p>※ 2 補助事業を実施する者が個人である場合に限り必要。（補助対象設備が集合住宅用充電設備である場合は除く。）</p> <p>(4) その他市長が必要と認める書類</p>

別表 10 (第 10 条) 実績報告書の添付書類 (補助対象設備ごとに必要となるもの)

補助対象設備の種類	実績報告書の添付書類
家庭用燃料電池システム (エネファーム)	(1) 補助対象設備の設置状況が確認できる写真 (2) 補助対象設備が未使用品であることを確認できる書類の写し
定置用リチウムイオン蓄電システム	(1) 補助対象設備の設置状況が確認できる写真 (2) 補助対象設備が未使用品であることを確認できる書類の写し (3) 補助対象設備を設置する住宅が別表 2 「定置用リチウムイオン蓄電システム」の(1)に掲げる要件を満たすことを証する書類
窓の断熱改修	(1) 補助対象設備の設置状況が確認できる写真 (2) 補助対象設備が未使用品であることを確認できる書類の写し※ ※窓の性能を証明する書類の写しでも差し支えない。
電気自動車、プラグインハイブリッド自動車	(1) 補助対象設備の設置状況が確認できる写真 (保管場所において撮影した写真) (2) 補助対象設備を購入する者が居住する住宅が別表 2 「電気自動車、プラグインハイブリッド自動車」の(1)に掲げる要件を満たすことを証する書類 (3) 自動車検査証記録事項の写し (4) 別表 6 において、住宅用太陽光発電設備及び V 2 H 充放電設備を併設する場合の補助を受けようとするときは、V 2 H 充放電設備を設置していることを証する書類
V 2 H 充放電設備	(1) 補助対象設備の設置状況が確認できる写真 (2) 補助対象設備が未使用品であることを確認できる書類の写し (3) 補助対象設備を設置する住宅が別表 2 「V 2 H 充放電設備」の(1)に掲げる要件を満たすことを証する書類
集合住宅用充電設備	(1) 補助対象設備の設置状況が確認できる写真 (2) 補助対象設備が未使用品であることを確認できる書類の写し

	<p>(3) 一般社団法人次世代自動車振興センターへ提出した実績報告書類一式の写し</p> <p>(4) (3)の実績報告に係る申請の額の確定書類の写し</p> <p>※</p> <p>※一般社団法人次世代自動車振興センターへ変更の申請をしている場合に限り必要。</p> <p>(5) 別表6において、住民以外も充電設備を利用可能な場合の補助を受けようとするときは、マンション等の敷地の外から撮影した、住民以外も充電設備を利用することができることの記載がされた案内板と周囲の景観が確認できる写真</p>
住民の合意形成のための資料	<p>(1) 作成した充電設備の設置場所見取図，平面図，電気系統図，配線ルート図，住民の費用負担のシミュレーション等の資料の写し</p> <p>(2) マンション管理組合の総会で集合住宅用充電設備の導入についての議論が行われたことが確認できる議事録等の写し</p>

別表11（第15条） 財産処分制限期間

補助対象設備の種類	財産処分制限期間
家庭用燃料電池システム (エネファーム)	6年
定置用リチウムイオン蓄電システム	6年
窓の断熱改修	10年
電気自動車	4年
プラグインハイブリッド自動車	4年
V2H充放電設備	5年
集合住宅用充電設備	5年